

析の問題を、もっぱら演繹的方法で考察する。それに対して計量経済学の方法は帰納的であり、データを基礎としたモデルの計測と計測されたモデルのデータへの適合性を統計的手法を用いてコンピュータで検討することがテーマである。

3. 管理工学講座

この講座は、企業行動のもつあらゆる側面を研究対象として含むが、もっぱら工学的分析手法が採用される。数理計画、数理経済学でとりあげる企業の最適行動に比べて管理工学の研究対象としてのそれは、はるかに実証的、具体的である。企業内部のシステムを分析し、現実的なモデルの決定と計測を行なう問題は必然的にコンピュータによる情報処理技術と結びつく。この講座には企

業経済学(意思決定論, 投資配分・決定), 管理工学(システム分析, 組織論, OR, OA, IE), 情報管理(記号論理学, 機械化会計, 情報処理)がおかれている。

4. 産業計画講座

この講座は産業の観点から経済構造の現状を分析し、そのあるべき姿を推計し設計することを目的とする。その分析方法は、産業そのもののもつ発展の論理と、産業に対する社会的要請との調和にもとづかねばならない。そのためには、組織化された資料蒐集や機能的な実態調査が必要である。産業計画講座には産業計画(産業構造, 産業政策), 産業配置(産業立地, 地域計画), 産業技術(技術論, 技術政策), 労働経済(労働経済学, 労使関係論)の4つの専攻分野がある。(児玉 正憲)

熊本商科大学

本学の構成は図1に示すように、商経学部のみ単科大学である。前身の東洋語学専門学校(昭和17年創立)以来の伝統からであろうか、国際交流が活発に行なわれている。具体的な活動は、南米、東南アジアを中心とする各国からの留学生の受入れ、米国・モンタナ州立大学等9大学(州立6校, 私立3校)との姉妹校提携、教員交換留学などである。また、研究機関として海外事情研究所が併設されており、また他の特色としては、産業・経済とこれに関連する諸事項の調査を目的とする産業経営研究所がある。

今年4月には、商学部に新たに経営学科が開設され、経営管理、経営情報を中心としたカリキュラムが組まれている。OR科目として、経営科学(3, 4年), 演習B(3年), 演習C(4年)を開設し、また、その他関連科目として、経営統計論、意思決定論、マネジメント・システム論、経営情報論、コンピュータ論、プログラミングなどが開設されている。

ところで、今年の7月22日から26日まで、ハワイ州、カウアイ島のワイオハイ(WAIOHAI: ホテル名)において、第1回ファジィ情報処理国際会議(The First International Conference on Fuzzy Information Processing)が開催され、筆者も発表者の1人として参加したので、この会議の概要を紹介させていただく。この会議は、日米欧のファジィ・システム研究グループの合同会議として開かれたもので、研究発表は以下のセッションに別れて行なわれた。すなわち、ファジィ数学、

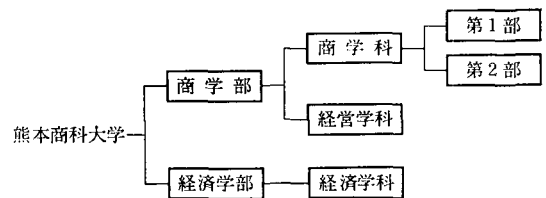


図1 熊本商科大学の構成

パターン認識, ファジィ論理, 情報検索, ファジィ・データ・ベース, コンピュータ・ビジョン, 決定理論, エキスパート・システム, コントロールとモデリング, マン・マシン・システム, オペレーションズ・リサーチ, 意思決定システムなどである。ORのセッションは、ファジィ数理計画問題に関する発表が主であった。ところで、すでにファジィ・システムに関する研究者の国際組織IFSA(International Fuzzy Systems Association)が発足し、来年はスペインで国際会議が行なわれる。

また、数年後には東京でファジィ・システムに関する国際会議が開催される予定になっているので、この分野の研究がより一層活発になることを期待したい。

(野尻 秀之)